

元通りの生活を取り戻そうと、復旧に力をあわせる住民ら(15日午後、兵庫県佐用町で) 一前田尚紀撮影

役場の判断待っているのはダメ 地域ごとに避難勧告出して

早めの行動が重要だった

台風9号による豪雨で、大きな被害を受けた兵庫県佐用町の被災した住民50人を対象に、読売新聞が聞き取り調査したところ、避難の際、半数の住民が自分で状況判断し、早めの行動が重要だったと感じていることがわかった。町への要望では、早期の水道の復旧や、後片づけのための支援などを求める声が多かった。16日で豪雨から1週間。町は15日、避難勧告の基準を見直し、新たに防災計画を作成することを明らかにした。避難所などで、町内の10〜80歳の男性27人、女性23人に聞いた。

佐用豪雨住民50人に聞く

■教訓 「まだ大丈夫と思っていて約2時間後、トイレや風呂が油断していた」。樹田 呂の排水溝から水が噴きみゆきさん(47)はそう語る。9日午後7時30分頃、自宅近くの佐用川の水位が上がったが、「せいぜい2階で水が引くの待った

という。樹田さんは「水のスピードはさまざま。豪雨では行政の情報を待たず、早めに行動することが重要」と話す。「役場の判断を待っていてはダメ」「17歳女性」「町内放送をあてにしない」「30歳女性」など計25人が自分で判断する大切さを口にした。

■要望

町への要望は多岐にわたる。「いま何が必要」の問いには、約半数が「水」と答へ、「水道の早期復旧」を願う声が多かった。「ボランティアに来てほしい」「(22歳男性)など、自宅の後片づけで人手が足りないという意見も自立した。防災に関しては、「町の全地域でなく、地区ごとに避難勧告を出してほしい」「59歳男性)。「大雨でも冠水しないよう川の拡張工事が必要」(80歳男性)などの意見も寄せられた。

■行政

佐用町の麻生典章町長は16日、記者会見し、避難勧告の遅れが指摘された点について、「申し訳なく思う」と、公式の場で初めて陳謝。「地域ごとに避難勧告の基準を設けるなど防災計画を練り直したい」と表明した。

住宅復興に支援金が出る被災者生活再建支援法に基づき住宅の被害認定については、「住宅が壊れていないでも、浸水して住めないケースもある。判定基準を下げることを国などに要望したい」と話した。

転覆船の船長 日本海で遺体

台風9号による豪雨で、兵庫県警は15日、14日の捜索で見つかった遺体について、同県佐用町上月、県職員平谷恭邦さん(48)と判明した、と発表した。

一方、15日午前9時45分頃には、京都府京丹後市沖の日本海で男性の遺体が発見され、兵庫県警は、増水した西山川(同県豊岡市)で10日、転覆した船に乗っていた行方不明になった同県香美町香住区、田中惣一船長(56)と確認した。

同県内の死者は20人、行方不明者は2人となった。

避難勧告見直し

内閣府検討 佐用豪雨教訓に

自治体の一律判断限界



ボランティアのオマケ
ほんとはあがとうき
責任すにえんぼるな

台風9号の豪雨で、兵庫県佐用町で亡くなった人の多くが、避難中に濁流にのまれたことを受け、内閣府が自治体の避難勧告の判断時期や避難方法の見直しの検討を始めたことが15日、わかった。今年には災害対策基本法制定のきっかけとなった伊勢湾台風から50年。専門家は「行政が避難勧告を一律に出すと定めた法を考え直す時期に来ている」と指摘している。

(26面に関連記事)

地域全体に出すことになっている避難勧告が今回のケースで機能しなかった可能性があるという。内閣府は今後、国土交通省など関係省庁と協議するという。佐用町を流れる佐用川は9日午後7時50分に避難判断水位(3.3m)を、50分後に「氾濫危険水位」(3.8m)を超えた。町は9時20分に全域に避難勧告を出したが、このとき一部地域

被災した住宅の後片付けをする人たち。避難勧告の難しさが浮き彫りになった。15日午後、兵庫県佐用町(頼光和弘撮影)

で、川や用水路の氾濫が始まっており、勧告前に自主避難を始めた住民も多かった。一方で急な増水で避難できず自宅2階にいたため助かった住民もいた。廣澄典章町長は「被害状況が地区で異なり、勧告の判断が非常に難しかった」と話した。

災害対策基本法は、国民の生命や財産を災害から保護する責任が国や自治体にあると明示。これに基づき各自治体が防災対策や避難勧告をしている。だが、片田敏孝・群馬大教授(災害社会学)は「ゲリラ豪雨など急激な増水による被害が拡大している昨今、一律の避難勧告では対応しきれない」と指摘する。

平成12年9月の東海豪雨で市の大半が浸水する被害に遭った愛知県清須市では昨年9月、全国初の「行動指南型」ハザードマップを作成。住居の種類や階層、

立地場所により、避難か自宅待機かなどをフローチャート図と地図で示した。担当者は「作ったときは、『行政の責任放棄』と批判されるのではと思ったが、予測には限界がある。適切な避難を自主的にしてもらうのが最も効果的」と話す。

冠水80センチ 避難中犠牲に 泥水2メートル 2階へ逃げた

8/16 朝日

西日本を中心に襲った豪雨から16日で1週間。被害が集中した兵庫県佐用町では、避難しようとした多くの住民が濁流にのまれる異例の惨事が起きた。豪雨災害の人的被害について研究する静岡大防災総合センター准教授の牛山素行さん(41)と14日に現場を歩き、水害対策に生かすための教訓を探った。(川田博史 浅倉拓也) 1135面に関係記事

兵庫・佐用の豪雨 1週間

3家族の8人が死亡、1人死者・行方不明者20人のほぼが行方不明になった佐用町本郷の町営牛山住宅。建物の損傷は目立たないが、町内での

くなるのも無理はない。

小学校近くの道路に並行して幅約1・5メートルの用水路があり、はらんした牛山川に注ぐ。目撃情報などから、犠牲者はこの付近で流されたと思われる。用水路付近は周囲より土地が低い。こびりついた草から、豪雨が降った夜は80センチほど冠水していたことがわかった。牛山住宅と小学校の間にある公民館には、災害時の連絡網や避難場所についての掲示があり、自治会の防災



80センチほど冠水していた用水路付近を調べる牛山素行准教授。この辺りで多くの住民が流されたとみられる。14日、兵庫県佐用町本郷、川田写す

意識の高さがうかがえる。

ただ、大人でも、流れる水にひきまてつかればほとんど逃げなくなるという。水深50センチほどだ。牛山さんが専門器具で地形の高低差を測ると、平らに見える住宅地でも1メートル前後の起伏があった。1、2、3の高低差はほとんど意識されませんが、水害時の避難で

はとても重要だ」という。

一方、牛山川が合流する佐用川流域の久崎地区では堤防の一部が壊れ、多くの住宅が倒壊。商店の壁には2階近くの高さまで泥水の跡が残っていた。それでも死者・行方不明者は出なかった。ここは04年9月にも台風で浸水被害を受けた。住民の多



山さんは「犠牲者が出なかったのは驚きだ」と言う。牛山さんが04、08年の全国の豪雨災害について調べたところ、計262人の犠牲者のうち8割は避難行動を取らなかった。避難先や避難の途中で亡くなった人は1割にも満たなかった。

くは「その経験があつて助かった」と口をそろえる。県服店を営む花高イヨさん(59)は「04年の時は深いところで50センチほど冠水し、何とか近くの体育館に避難した。今回はすぐに水かさが増して04年の時を超え、外は危ないと判断した」。商店街の他の人たちもそれぞれ2階に上がった。牛山さんは「避難場所の選定で浸水の影響は考慮してない」と答えた。「災害の種類に応じた準備を、自治体だけでなく地域や個人でも考えなくてはならない」。牛山さんはこう指摘した。

8/14 日経

避難判断難しと浮き彫り

死亡の6人自主避難中に被害

勧告発令時水位はピーク近く

台風9号に伴う豪雨被害に襲われ、大分県佐用町で、9日夜に町の避難勧告が出る前に自主避難した住民6人が、津山川の激流に流され死亡したことが14日、町長への取材で分かった。

一方、町が勧告を発令したのは佐用川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

兵庫・佐用町豪雨

午後7時	佐用町が災害対策本部を設置
50分	佐用川で避難判断水位を越える
58分	町役場の備米が佐用川の水位上昇を警告
8時ごろ	自治会役員らが津山住宅住民に津山川増水を警告
35分	県が町に佐用川の水位上昇を電話連絡
9時20分	町が全域に避難勧告
50分	佐用川の水位が最高の5メートルに達する
(注) 午後8～9時ごろまでの間に津山住宅住民6人が自主避難開始	



津山住宅の被災状況。住民らは避難所へ避難した。写真は津山住宅の被災状況。住民らは避難所へ避難した。

「雨や水の流れる音が、くのぼる避難所に徒歩で向かおうと、防災無線も聞き取れなかった。町の避難勧告が出る前に自主避難した住民6人が、津山川の激流に流され死亡したことが14日、町長への取材で分かった。

一方、町が勧告を発令したのは佐用川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

1遺体発見、死者17人に

兵庫県の佐用町で、9日夜に町の避難勧告が出る前に自主避難した住民6人が、津山川の激流に流され死亡したことが14日、町長への取材で分かった。

一方、町が勧告を発令したのは佐用川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

町内の全家庭に、津山川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

町内の全家庭に、津山川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

町内の全家庭に、津山川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

町内の全家庭に、津山川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

町内の全家庭に、津山川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

町内の全家庭に、津山川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

町内の全家庭に、津山川の水位が判断の基準を越えてから1時間以上過ぎており、水位のピークの時間帯に近いという点も判明。夜間避難の危険性や行政が住民に避難を求めた際の判断の難しさを浮き彫りした。

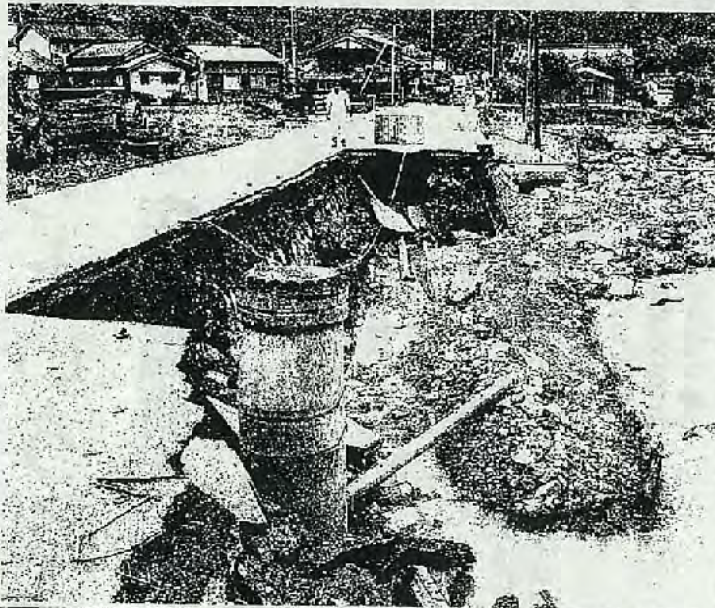
集落孤立は想定せず

豪雨被害の宍粟・福知

橋3本流れ、全戸停電

県危険個所洗い出しへ

兵庫県西部や北部の豪雨被害で、宍粟市一宮町では土石流で橋が崩れたり、土砂崩れで道路が寸断された。計165人の住民は県の防災ヘリコプターで運ばれた。同日、全戸が停電した。計165人の住民は県の防災ヘリコプターで運ばれた。同日、全戸が停電した。計165人の住民は県の防災ヘリコプターで運ばれた。同日、全戸が停電した。



道路の崩壊が明け、マンホール蓋が飛び出た。11日午後、宍粟市一宮町福知（撮影：人森 武）

宍粟市一宮町福知の3に入っている千軒は土砂（82人）では10日未
 幸落、同町草木の一部と崩れで道路が通行不能。住民が「大雨の被害
 同町千軒の計5集落。ここに、一万、ハサードマップが広がっている。市に
 のうち、ハサードマップに入っていない一宮町一電通連絡。市職員が駆け
 手段も不十分だった。

兵庫東部や北部の豪雨被害で、宍粟市一宮町では土石流で橋が崩れたり、土砂崩れで道路が寸断された。計165人の住民は県の防災ヘリコプターで運ばれた。同日、全戸が停電した。計165人の住民は県の防災ヘリコプターで運ばれた。同日、全戸が停電した。

1台だが通話圏内にあ
 り、市と連絡が取れたと
 いう。その後、白鷺隊が
 出動。地区内の福知深谷
 休養センターなどに泊ま
 っていた観光客約30人を
 急め金蔵が11日正午ごろ
 まで、川に架かる水害
 橋を渡った。ヘリで救
 助された。

院に仮住まいしている。後の対策を検討したい。男性（55）は「他地域の被災者として、市消防防災署など支援が全く不足な。課も危険個所の見直しをかけた。忘れられている。検討する」と話す。県はハサードマップによる、被災者の見直しを7月下旬を目途に実施する。要援調達の避難の手順を定めることであらうと見られる。

ずっと二人三脚だったのに

佐用で犠牲の宇多さん 妻が涙



宇多 耕作さん

「ずっと二人三脚でやってきた。お盆は毎年、孫が来ま
 きました。」「佐用町役場付近、スイカ割りや焼き肉を楽
 から約1kmの潮流に流された。」「耕作さんは被災者な
 みられる同町多賀、農業多賀いビルを口にし、ここに
 耕作さん（2）の遺体が10日後、見守った。今年も楽しみにし
 ていた。

孫との再会、目前に

「お前がいないとなったら、仕事も何もせいで」と頼ら
 した。さきさんが「わたし
 やつたら、人になっても、体
 が動くまで頑張る」と笑って
 励ました。
 それなのに耕作さんが先に
 逝った。「さきさん、でも、
 あ、いつかは別れないといけ
 ないのだから」。さきさん
 は、自分に言い聞かせるよう
 に語った。（土井秀人）

内閣府の担当者は「も
 らえれば、被害の拡大
 は防げた可能性がある
 と話した。兵庫県が求め
 る避難指示の早期指定に
 ついては、被災規模の特
 定に時間がかかるため、
 判定は早くても8月末に
 なるとの見通しを示し
 た。（高見雄樹）